



福島放技ニュース

THE NEWS OF THE FUKUSHIMA ASSOCIATION OF RADIOLOGICAL TECHNOLOGISTS

2013

3月21日号

134
VOL.

発行所 社団法人 福島県放射線技師会

〒960-8003 福島市森合字蒲原16-7 TEL/FAX 024 (559)1043

ホームページアドレス <http://fart.jp/>

巻頭言

もう二年・・・まだ二年・・・



副会長 遊 佐 烈

東日本大震災から二年が経過した。あの事故は我々に何をもたらしたのだろうか。最初の年は誰もが無我夢中であった。避難住民のスクリーニング活動・環境放射線測定・住民へのリスクコミュニケーション、IPの黒点問題、BqやSv、外部被ばくと内部被ばく等々。一般の方々から拡散した放射性核種に対しての質問を受け、自分自身が勉強し直す事になった。あの時から比べれば県内の住民の方々も大分落ち着いたように思える。TVや新聞情報も少なくなった。福島より遠く離れた他県にすればもう忘れたと思っているのかのように感じる時がある。しかし仮設住宅は存在するし、避難されたままで、昔の地に戻って以前のように普通に生活している訳ではない。帰るためには除染が前提だし、インフラ整備も必要となる。遅々として進まぬ行政に怒りから諦めに代わりつつあるのを悲痛な気持ちで見ているのは、私一人ではないと思う。

故郷を捨て、新しい土地で生きて行く事を決めた方も多いと聞く。外部被ばくや内部被ばくに関しては県民健康調査票を提出された方には推定被ばく線量が報告され、ほとんどの方が有意な汚染が無い状態であることが報告されている。

内部被ばく測定のためのホールボディカウンターについて、2012年1月と4月に第1回・第2回福島ホールボディカウンター学術会議が福島医大病院で開催された。ホールボディカウンターそのものは測定機器であるため、看護師さんであったり事務職の方が測定したりすることも可能である。ただし、測定機器ではあるが、その精度に関しては問題も多く、出てきた数値が何を意味するかを的確に答えるべきなのは、我々放射線技師が適していると思う。今年2月末に第3回ホールボディカウンター学術会議が開催され、そこで福島県ホールボディカウンター研究会の設立が行われた。会議には福島県放射線技師会の斎藤会長も出席された。この研究会は福島県立医科大学健康管理学講座が主催となり、我々福島県放射線技師会も共催という形で協力していくことになった。装置の操作を行っているのが放射線技師のみではない事から職種を限定せずに職種を超えて問題を話し合おうという事がメインとなる。福島県においては機器の設置された環境等によりバックグラウンドスペクトルにCs-134, Ce-137が出てくる事もあり得るし、装置形状による問題点も指摘され、ようやくソフト面での改善も進んでいるようだ。これも原発事故の結果分かった事であるし、メーカー側も製品に対して不具合を指摘されるなどと考えもしていなかったと思う。現在でも体格の制限により小児の場合精度が落ちる事もあり、これも今後の課題として研究会で検討される事になるであろう。県内に配備されたホールボディカウンターの台数は50台近いと言われている。今後もこの装置で大規模な住民健康調査を行う事で新たなエビデンスが生まれる事になる。そのためにも我々放射線技師が積極的に携わり、精度の高いデータを残す必要がある。福島第一原発が廃炉になるまでの長い年月を、先輩から後輩に受け継ぎながらデータの蓄積を進めて行かねばならない。測定結果に対し、放射線技師として責任の持てる物にするためにもこのような研究会に積極的に参加し、個々のスキルアップにも繋げて頂きたい。避難されている方々の立場になって対応できるのはやはり、福島県に住む放射線技師会の皆さんだと思います。

第3回理事会議事録 (抄)

日時：平成24年11月16日(金)14:00分～17:30

場所：医科大学付属病院放射線部カンファランス室

出席者：齋藤康雄会長、遊佐 烈副会長、今野広一副会長、(理事) 佐藤政春、白川義廣、平井和子、渡部育夫、小松一文、渡辺和夫、菅野和之、嶋田峻二、新里昌一、堀江常満、佐藤佳晴、以上理事(監事) 片倉俊彦監事、(事務局) 伊藤陸郎、阿部郁明

欠席者：(理事) 佐藤靖芳

議長に今野広一副会長、議事録作成人に佐藤佳晴理事(東北支部)を選び議事にはいる。

議題

1) 平成25年度事業報告及び今後の予定等

各支部報告及び財務報告

各支部報告

- ・ 県南、県北、会津支部は別紙に記載。浜通り支部は先月いわきにて勉強会が行われ、1月には新年会を予定していると報告あり。

財務より報告

- ・ 別紙資料にて報告あり。
- ・ 会費の滞納について、22年度未納の7名には11月中に会長名で督促状を出し、今年中の納入がなければ退会とする。(再入会は未納分を納入して貰う) 23年度、24年度未納者については、未納者が200名近くいる。会運営に支障あるので各支部で対応する。
- ・ 会費の納期内納入をお願いする。
- ・ 県技師会会費の請求書は日放技から発送されている年を越えてから2月頃に未納者リストを日放技に送るが、それ以降に納入されると翌年度に未納として合算された請求書が発送されてしまい、その振込用紙は単年度納入には使えないので、日放技に連絡し再発行になる。

各委員会、各分科会報告

精度管理委員会 報告なし

調査委員会 別紙記載

- ・ アンケート結果を学術大会で発表した。編集広報委員会
- ・ 今月ニュース、来年1月に新年号発行予定。ネットワーク委員会
- ・ ホームページの容量が少ないので乗り換えを考える。そのため2009年、2010年のデータは一時退避している。40Gbのホームページに12月中旬移行予定。学術委員会 別紙に記載
- ・ 今月行われた福島県放射線技師学術大会、参加者158名 演題数25題。生涯教育委員会 別紙記載
- ・ 10月28日 フレッシュアップセミナーを総合南東北病院で開催 17名参加。
- ・ 11月24日、25日X線CT認定技師指定講習会 参加者80名(内県内17名)
- ・ 医療画像情報精度管理士への移行講習会を平成25年2月に開催を計画する。
- ・ 来年度のフレッシュアップセミナーは5～6月に開催したい。総務 企画委員会
- ・ パネル、ポスターを複数部作っていききたい。乳腺分科会 別紙に記載

学術大会・研修会・講習会等

感染対策強化推進事業、放射線技師コースの開催について(別紙記載)

- ・ 予定参加人数は40名なので各支部から10以上名出席してもらいたい。締め切りは12月7日午前中で、検診施設には案内だし通知する。

第3回東北放射線医療技術学術大会について

- ・ 別紙記載 平成25年11月2日(土)、3日(日)コラッセふくしまで開催する。

- ・ 参加予定人数600名、演題数100題。市民公開講座のテーマを考えている。

- ・ 情報交換会は会費5,000円、福島ビューホテルで行い、フラダンスなどの余興を考えている。

- ・ 業者に対しては広告費以外でお金を取るつもりはない。広報準備としてポスター作成、新聞広告を行うが、予稿集の配布は当日の参加者のみとし、全員に配らない。(PDFでネット配信する予定)

リスクコミュニケーション講習会の開催について

- ・ 平成25年2月19日、日本放射線技術学会から福島県並びに隣県の放射線技師を対象に、市民から質問を受けた時に同じように答えられるようにする講習会。参加費は無料だがテキスト代を2,000円程度負担の予定。福島県放射線技師会会員には、人材育成事業の一環として参加者への補助を行い参加料の減額を考えている。

平成25年度 福島県放射線技師会総会について

- ・ 県北の担当になるが現在のところ決まっていない。福島県マンモグラフィ技術講習会 別紙記載
- ・ 平成25年3月2日、3日に県立医科大学病院にて開催予定。募集人員は50名(更新者は12名まで)、受講料は福島県放射線技師会会員が25,000円、非会員が35,000円になる。(申込は郵送のみで、11月20日から開始する)

緊急被ばく医療の基礎講座が開催される

- ・ HPで案内しているが、本日が締め切り日になっている。放射線管理士部会員には参加を要請している。

その他

来年度の表彰

- ・ 日放技30年表彰6名、50年表彰1名を11月15日付けで提出した。
- ・ 平成25年春の叙勲 富塚氏を申請した。25年度の知事表彰の推薦依頼が来ているが該当者がいない状況。

2) 協議事項

ネットワークのドメインについて(ネットワーク委員会)

- ・ ダウンロードサイト1つ1つにパスワードを設けているが、今後ダウンロードサイト自体にパスワードをかけるようにする。ID、PWを再設定する。(承認)、ホームページに伴うドメイン名の変更は行わない。

ロゴマークについて

- ・ 県技師会のロゴマークのFARTが英語の意味では好ましい単語ではないので、現在、HPのトップページのロゴマークのみ、F.A.R.Tに変更している。今後どうするか。

編集・広報委員会で検討する

来年度の福島県放射線技師会学術大会について(学術委員会 別紙で説明)

- ・ 11月に東北医療技術学術大会があるので、通常の

開催は難しいので、平成26年2月頃に会員を対象に、郡山市の星総合病院講堂（定員150名位、今年12月に新築オープン）を会場に、4～5時間の予定で講演とシンポジウム、病院の見学会等を行い学術大会とする。（承認）

各分科会の助成金について（前回からの継続）

- ・参加費は必ず徴取することとし、企業の協賛が得られれば協賛金をいただき収支報告書を出してもらう。スポンサーがある研究会は従来通り開催し、スポンサーが無い研究会は、年度毎に事業計画案と予算案を出して貰い理事会で諮り予算化する。技師会から支出する場合は必ず年度末に決算書を提出する。

鈴木憲二賞（仮称）について 別紙

- ・鈴木憲二氏の意味を受け継いで活動し、原発災害対策支援活動等について功績を認めた会員について表彰したい。名称も検討する。
- ・趣旨に沿って賞及び副賞を授与する件は承認されたが、取扱規程（内規）を作成し、支出の取扱い等を決めておいた方が後の処理がスムーズに行くので、規程・推薦様式等を作成し次回の理事会に諮る。名称も再検討することとした。

日本放射線技師会、代議員選挙について

- ・別紙資料 平成25年、26年度の代議員選挙の事務連絡担当者は便宜上齋藤会長が担当する。12月26日までに日放技に回答する。

平成25年度「静脈注射（針刺しを除く）」統一講習会の開催について

- ・別紙資料 協議の結果、1回開催を希望することで日放技に回答することにした。

開催時期は未定。

平成25年度マンモ講習会の開催について

- ・来年度の講習会は、医師会から同時に開催してほしいということで開催日も仮押さえているとのことであるが、医師の講習会はシャウカステンの数も多く医大には設置する場所がない。看護大学も含め場所の候補地を探し、同時開催の可能性を検討するとともに、今年度の講習会の参加状況も見ながら最終決定をする。

3) 報告、その他

公益社団法人移行について

- ・11月14日に県庁の担当者との面会（片倉、遊佐、齋藤）し、申請する内容の書類を持参し意見を求めた。

今年中に申請書を行い、今年度末までには移行できるようにしたい。目標としては、来年5月の総会で社団法人を解散し、公益社団法人を設立したい。会議報告

- ・全国会長会議 別紙資料に議事記録もあるので詳細については読んでほしい。静脈注射に関する講習では20人に満たない場合は開催できないので注意が必要。

- ・第29回日放技の学術大会は平成25年9月20日～22日に島根県松江市の島根県民会館で開催される。事前登録費が8,000円になる。

- ・第30回大会は平成26年9月19日～21日に大分県別府市で開催される。

- ・技師会の入会手続きはネットが作動しない場合は紙で申し込んでほしい。

福島県緊急被ばく医療対策協議会

- ・別紙資料 マニュアルの改訂を進めている。

学術奨励金の支給について 別紙記載

- ・第28回診療放射線技師学術大会（名古屋）6名、第2回東北放射線医療技術学術大会（仙台）10名には1万円を助成する。

福島県医療機器開発、安全性能評価センター（仮称）について 別紙資料

- ・会談記録があるので読んでほしい。福島県商工労働部産業創出課の角田氏と会談を行った。人材育成と訓練機能が診療放射線技師に関連する項目になる。別紙のような要望は出しているが12月頃に予算化されるのでその後調整する。プロジェクト機能では、福島ならではのものを産学官として行っていくが、WBCの精度管理のようなものもあるのではないかと提案した。まだ、建設の場所や施設の詳細は決まっていない。

公益社団法人日本診療放射線技師入会手続きについて

- ・JARTの情報システムの不具合でHPからの申込でトラブルが発生している。その時は、紙での申し込みをお願いしたい。申込用紙はHPに載せてある。26年度診療報酬改定のアンケート調査について
- ・このアンケートは、日頃の業務の内容を診療報酬に反映させるための会議資料作成のベースとなる。JART 11月号に同封されているので、提出の協力をお願いしたい。

以上で議事を終え、次回理事会開催日を平成25年3月8日(金)と決め閉会した。

会 告

平成25年3月8日

下記により、平成25年度社団法人福島県放射線技師会定期総会を開催いたします。

記

平成25年度 社団法人福島県放射線技師会総会
日 時 平成25年5月11日(土) 13時30分より
会 場 「あづま荘」福島市飯坂町字中ノ内1-1

プログラム

【1日目】

13：30 受付	15：10 一般公開講演 開場
14：00 開会	15：30 一般公開講演
14：10 学術委員会分科会及 び部会活動報告	16：45 総会

告 示

定款第11条及び第13条の規定に基づき、平成25・26年度役員選挙を下記により行います。

記

- 1、役員の数
会長：1名 副会長：2名
監事：2名 理事：11名以上14名以内
- 2、立候補、推薦候補届出受付開始日及び締切日
平成25年3月25日より4月19日正午まで
- 3、投票日
平成25年5月11日 平成25年度定期総会開催日
以上告示します。

平成25年3月8日
社団法人福島県放射線技師会
選挙管理委員会

委員長	佐藤	久光
委員	松枝	直宏
委員	菅野	修一
委員	赤沼	輝亨

「結核対策放射線技師コース研修会」 開催される

去る12月15日(土)、福島県立医科大学附属病院第1臨床講義室で「結核対策放射線技師コース研修会」が開催された。



この研修会は福島県の感染症危機管理人材育成委託事業の一環で行われ、近年の結核等の再興感染症の脅威が高まり、結核対策のより一層の改善を図るため、結核医療等に携わる診療放射線技師等を対象に、結核の診断や治療のための胸部X線撮影やデジタル画像等の基礎や技術の向上及び結核の標準治療、集団感染対策等の理解を深め、結核対策の強化を図ることを目的に開催された。

研修会は、公益財団法人結核予防会結核研究所 対策支援部放射線学科長 星野 豊先生による「最新の結核対策の動向及び効果的な患者発見について」と題して、講師が参加者に質問する形式で行われた。受講者は、講師の先生がだれにいつどんな質問をするかわからないため真剣に聴講していた。大変有意義な研修会となった。

寄稿

「平成24年度学術奨励賞」を受賞して

白河厚生総合病院 放射線科 城戸 修



この度は、学術奨励賞を受賞させていただきまして、ありがとうございます。勤務移動で今年度より坂下厚生総合病院から白河厚生総合病院へ移動となりました。

今回受賞させて頂いた「TRANCE法における最適撮像条件の検討」は、FBI (Fresh Blood Imaging) 法に代表される心周期2時相の差分により動脈のみを選択的に描出する非造影Angiographyで、非造影シーケンスにおいて最も標準的な方法として確立されているものになります。TOF法やPC法では撮像時間や原理的に描出が難しい鎖骨下動脈や末梢動脈等については安定した画像が描出できていないという現状から、今回TRANCE法による最適撮像条件の検討を始めました。

まず、Refocusing Flip Angleは再収束パルスの角度とされ、低RFAでは流速の速い動脈はFlow voidを起こしやすく、高RFAでは起こしにくいといった性質があるのを利用し、低RFAを収縮期に用いることにより動脈がFlow voidを起こしやすくなり、また、流速補正である「Flow compensation, Sensitized」とよばれるrephasingパルス、dephasingパルスをを用いて収縮期にはrephasingパルスである「Flow compensation」を入れ、拡張期にはdephasingパルスである「Sensitized」を用いて差分を行うことによ

り、より動脈を高信号に描出することが可能となりました。

今回の検討では、STIRを組み合わせることにより差分が良好に行うことが出来ましたが、TI delayより流速が速い(短い)場合には困難を要することが分かり、今後さらに検討を重ねることが重要と考えられました。

また、今回の検討に際しさまざまなアドバイスを頂きました。坂下厚生総合病院放射線科医の太田先生、福島県厚生連放射線技師の方々に感謝申し上げますと共に、今後もたゆまず研鑽を積んで医療の質の向上に努めてまいります。

白河厚生総合病院 我妻 真一



この度は学術奨励賞に選出させていただき、誠にありがとうございます。この発表に関わった全ての技師、及び選考委員会の方々に御礼申し上げます。

さて今回学術奨励賞をいただきました「心臓カテーテル検査におけるスタッフの被ばく低減および意識改善 ~第二報~」ですが、第二報とある様に旧病院時代に行われた測定方法と教育訓練を参考にしました。検討内容のベースは出来上がっていたので、比較的スムーズに進めることができるのではないかと考えていましたが、とんだ間違いでした。散乱線分布図作成のための測定は、本来ならば測定誤差を少なくするため1日で終わらせたかったのですが、測定回数がゆうに1000回を超えていたため、数日に分けて行いました。毎晩遅くまで測定に協力してくださった技師のみなさんには、感謝の言葉もありません。時間が遅くなるにつれ口数が少なくなり、テンションも下がっていくなか、何とか測定をしていたのも、今となっては懐かしく思い出されます。

スタッフの教育訓練は「放射線とは?」「被ばくによる人体への影響」「散乱線分布」「各地点での被ばく線量」「被ばく低減の方法」「個人被ばく線量計」と、項目が多岐にわたっていました。放射線技師にとっては当たり前の知識でも、他の医療スタッフに伝えるように、極力専門用語を使わず噛み砕いて説明するのは難しく、試行錯誤を繰り返しながらスライドを作成していきました。スライド枚数約60枚、時間にして30分を超えてしまい、聞く側にとっては集中力を欠いてしまうのではないかと恐れ、反省点を残す結果となりました。しかし色々苦労は多かったですが、散乱線測定も含め、放射線の基礎を改めて学び直すことは、自分にとって大きいプラスとなった研究発表であったと思います。

配置転換で血管撮影に従事するスタッフや毎年入ってくる職員などに向けて、教育訓練用スライドの見直しを行い、今後もスタッフの意識改善に役立てるよう、そして少しでもより良い医療を提供できるよう自己研鑽に努めて参りたいと思います。

編集後記

スギ花粉の季節です。今年は花粉の量が多いとか。花粉症対策商品が数多く売られていますが、どの商品が自分にあっているのか迷うことがあります。

先日耳鼻科のドクターの話を聞く機会がありました。抗原をなるべく避けること(マスクやメガネの着用)、我慢しないで薬を使うことをおっしゃっていました。そして人前では使い難いのですが、点鼻薬はお勧めだそうです。GWあたりまで何とか乗り切りたいものです。(本間)